

平成28年度10月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成28年10月4日（火）午後1時00分～1時40分

場所 市役所2階第1委員会室

出席 市政記者クラブ7社

会見内容

1. はじめに

- 観光交流都市・岡山市への友好親善交流訪問団の派遣についてです。
岡山県岡山市とは、昭和54年にタンチョウを縁として観光交流都市の締結を結んでおり、今年で交流37年目を迎えるものでございます。
昭和55年より相互訪問等による交流を積み重ねており、昨年岡山市公式訪問団4名及び市民訪問団27名が釧路市に来ていただいたところであります。
- 今年は釧路市から岡山市へ公式訪問団と市民訪問団からなる友好親善交流訪問団を派遣する年にあたり、あわせて30名程度での訪問を予定しております。
- 市民訪問団につきましては、既に報道依頼をさせていただいておりますが、訪問日程は、11月21日（月）から24日（木）までの3泊4日となっており、岡山市主催の歓迎レセプションへの参加や、岡山市内観光、広島市内観光などを予定しており、現在、募集中であります。
- 釧路市といたしましては、このような交流が、岡山市と釧路市、相互の理解を深めるとともに、両市の友好関係のより一層の発展に資するものと考えております。
- 次に、ABC創立65周年記念スペシャルドラマ「氷の轍（わだち）」についてです。
既に新聞、広告等でも出ておりました、ABC朝日放送の創立65周年を記念して制作されたドラマ「氷の轍」は、直木賞作家で釧路市の観光大使でもあります、桜木紫乃さんがこのドラマのために書き下ろしされた作品であり、釧路市が物語の舞台となっております。
- 本作はドラマの放送と書籍の出版が連動したメディアミックスとなっており、ドラマ放映は11月5日（土）午後9時からABC・テレビ朝日系全国ネットにて放映されるということでもあります。
また、書籍については9月29日（木）から販売されており、10月15日（土）には、コーチャンフォー釧路店で桜木紫乃さんのサイン会が行われる予定と伺っております。
- この物語は、冬の釧路を舞台に、殺人事件を扱う刑事課の駆け出し刑事を演じる「柴咲コウさん」と先輩刑事を演じる「沢村一樹さん」がコンビを組み、事件

を解決していく刑事ドラマとなっております。

- ドラマの撮影につきましては、今年2月に約20日間の日程で、演劇関係者や市民、釧路市等の協力のもと、市内を中心に撮影され、この市役所本庁舎も撮影現場として使われていたところでもあります。
- 私も撮影現場を見させていただきましたが、総務部を警察署として撮影していたため、いつもの市役所とは雰囲気も違っており、どのように放映されるか楽しみにしているところです。ぜひ、書籍の方とドラマをあわせて両方楽しんでいただければと思っています。

2. 話題提供(3項目)

1. 「新インフォメーションセンター丹頂の里」のオープンについて

- 最初の話です。

「道の駅阿寒丹頂の里」の新たなインフォメーションセンターの建設工事が今月末には終了し、11月12日(土)にオープンを予定しているところです。

釧路や根室地域を観光される際の中継地点として、また、市民や観光客の皆さんの滞在の拠点として、多くの利用を期待しているところです。

利用者の皆さまに親しんでいただくため、「新インフォメーションセンター丹頂の里」の愛称を「クレインズテラス」と決定いたしました。
- 施設の内容といたしましては、道の駅本来の機能である、24時間対応のトイレと公衆電話や観光案内所に加え、軽食喫茶・物産販売コーナー、屋外イベントコーナーを設けるものとなっております。
- また、施設の建築資材として、構造材の柱や梁、内装材の腰壁等については、地元のカラマツ材を使用しております。
- 軽食喫茶・物産販売コーナーでは地元食材を使用した鹿肉バーガー、阿寒ポークホットドックなどの軽食や、管内市町村の特産品の販売を予定しており、多くの市民や観光客の皆さんにご利用いただき、親しまれるような施設としていきたいと考えております。
- 11月12日(土)は、午前10時からテープカットなどのセレモニーに続きまして、ヒートボイスのステージショーや、鹿肉を会場内で焼いた「鹿肉ロースト」の無料配布(先着200名)のほか、「赤いベレーレストラン鶴」では地元食材を使用したメニューを特価で提供いたします。
- 12日(土)と13日(日)の2日間にわたり開催する「第1回道の駅阿寒丹頂の里うまいもの市」では、「市内4つの漁業協同組合の海産物」や「管内のJ Aの協力による農畜産物」のほか、「釧路・根室管内の道の駅6駅でそれぞれ販売している特産品」などが一同に揃い、この地域の全体の味覚の秋を楽しむことができます。
- 今回、「クレインズテラス」のオープンに伴い、10月1日(土)から、これま

で国道沿いの少し離れた場所にあった路線バスの停留所が、赤いベレー駐車場内に移設されたことから、バスで来られる方もさらに施設を利用しやすくなったのではないかと思います。

また、阿寒バス様では10月1日（土）から「赤いベレー温泉入浴券付きバス往復セット券」を販売しており、釧路から丹頂の里までのバス往復乗車券や赤いベレー温泉入浴券などのセットが割引価格で購入可能で、バスを使って施設に来られる方も増えてくるのではないかと思います。

- 「クレインズテラス」へ、ぜひ多くの皆さんにお越しいただければと思っています。

2. 平成29年度クルーズ旅客船の寄港予定について

- 平成28年度のクルーズ旅客船の受け入れも、来週10月11日（火）の耐震旅客岸壁に着岸するフォーレンダムの寄港をもって終了します。今年度は14回の受け入れとなり、平成26年度の24回に次ぐ寄港数となります。
- 来年度のクルーズ旅客船の寄港予定につきましては、現時点ではありますが、日本船が1隻3回、外国船が5隻12回となっており、また、着岸岸壁としては、耐震旅客岸壁が9回、西港第4埠頭6回となっており、今年を上回る15回が予定されております。
- ダイヤモンド・プリンセスが4年連続の寄港で6回を予定しているほか、3年ぶりのアムステルダムや、初入港となるシーボーン・ソジャーンと、日本船では飛鳥IIが3回の寄港を予定しております。
- 来年度の寄港スケジュールを、いち早く発表させていただき、市民の皆さまや商店街など関係団体に、早め早めにお迎えとか、色々なことを企画していただければと思っています。
- 今後、受入関係団体や市内の商店街・振興会の皆さまへの説明会を開催させていただくなかでも、外国人・日本人観光客はどのような傾向である等をお話しながら、受入体制を整えていきたいと考えております。

3. 中小企業者・小規模事業者への支援について

- 市では、昨年12月に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標のひとつである「地域経済のプラス成長と雇用の創出を図る」の施策として、地域経済の担い手である中小企業・小規模事業者の競争力を高めるため、今年度、融資制度の充実を図るとともに、創業や経営等に関する相談窓口を設置し、地元事業者の支援に取り組んでおります。

今年度も上期が過ぎ、現在までの状況について、ご報告いたします。

- 中小企業融資制度では、今年4月から新たに「創業支援資金」を創設しており、この資金を活用し、新たに創業された方は15名いらっしゃいます。
このほか、市の空き店舗活用補助金などを利用し、新規に創業をされた方は8名おり、うち1名は融資と補助金等を併用しておりますので、新規創業された方はあわせて22名となっております。

- このように、地域の中で、新たな起業家、創業者が生まれてくることは、地域経済が活性化し、かつ好循環をもたらすものと考えております。
- 特に、中小企業者等の支援施策の中でも、女性が活躍できる環境づくりを進めるため、今年度から「女性の創業チャレンジ支援」に取り組んだところで、市内で女性の起業支援に取り組んでいる「株式会社うつくしろ」さんに委託し、実施したところでございます。
この事業の中で、先輩起業家からの基調講演やグループワークを中心とした講座を7月に計3回行ったところで、創業のきっかけづくりとなるよう毎回テーマを変え、各回とも14～15名の参加がありました。
- この講座終了後、参加者の中から、実際に事業を始められた方が2名おり、1名は「乳児用衣料品ネット販売」、もう1名は「ドッグホテルと雑貨等の販売」となっております。また、まもなく開業予定の方も1名いると聞いているところです。
- 今後におきましても、ひとりでも多くの女性の方が、自らの思う「やりたい」を実現し希望がかなえられるように、しっかりとまちづくりを行っていき、支援をしていければと考えております。

3. 質疑要旨

(質問)

- ・ 新インフォメーションセンター丹頂の里について、公衆電話の設置とありますが、Wi-Fiの整備はどのようになっているのでしょうか。また、物販販売では、既存の阿寒マルシェとの関係について、どのように考えているのかお伺いしたいと思います。

(阿寒町行政センター長)

- ・ 道の駅を管轄している国土交通省に登録する際には、電話機能が必須であることから、公衆電話を設置いたします。Wi-Fi機能につきましては、丹頂の里全体での完備を考えております。

また、昨年12月にオープンした阿寒マルシェでは、釧路管内の海・山の幸や阿寒地元のを販売し、新しいインフォメーションセンターにつきましては、軽食であるとか、お土産品等、阿寒マルシェを補完する形での販売を考えております。

(市長)

- ・ 阿寒マルシェは、観光客に向けて発信していくこともあるのですが、そのような中でも、生産地ということもあり、しっかりと地元地域を考えるものであり、また、阿寒丹頂の里は、釧路・根室管内の玄関口となる位置付けでもありますので、インフォメーションセンターと阿寒マルシェをあわせて活用しながら、道の駅の機能である様々な情報の発信をしていきたい。

(質問)

- ・ クルーズ船について、来年度15回は確定していて、増えることはあっても、減ることはないということでしょうか。

(市長)

- ・ はい、そうです。日本の船でまだ増えるかもしれませんが、現状の中では、これが最低限確定している数字です。

(みなと活性化主幹)

- ・ 実際には、天候等によって寄港できないということもあるかもしれませんが、この数字が最低の回数で、さらに日本船が増える可能性があるというものです。

(質問)

- ・ 最近、クルーズ船が非常に増えていると思うのですが、クルーズ船による経済効果等については、どのように考えていらっしゃるのでしょうか。

(市長)

- ・ 市でクルーズ船のお客様の調査をしたところ、釧路でお金を使われている方は、1人当たり1万1千円～1万4千円の消費をされています。

(みなと活性化主幹)

- ・ 平成24年度から26年度までの3カ年に、飛鳥Ⅱ、コスタビクトリア、アムステルダムなど色々な船の乗船客の調査をさせていただき、お土産、食事、またはタクシー代等、釧路市内で直接支払ったお金の合計ということで算出した数字となっております。

(質問)

- ・ それでは、実際はもっとあるのですか。

(みなと活性化主幹)

- ・ オプションのツアーバスに乗った等があれば、さらに増えると思います。

(質問)

- ・ 新インフォメーションセンター丹頂の里のオープンについて、阿寒バスの温泉入浴券付きバス往復セットの料金が、4,280円のところ3,000円ということは、その差1,280円分は釧路市が補助金を出しているのでしょうか。

(阿寒町行政センター長)

- ・ 市の補助金等はありません。関係する阿寒町観光振興公社と、阿寒バスと、釧路湿原美術館が連携して、それぞれのところが、応分に割引しているということです。

(質問)

- ・ 空港の民営化のことで、お聞きします。今、道がまとめた地元意見の素案についてパブリックコメントを行っているところですが、全道的な関心というものが、いまひとつであるように思います。市長として、道のまとめた地元意見の素案について、どのように考えていますか。また、道への意見や民営化に関する期待もお聞きしたいと思います。

(市長)

- ・ 道でまとめたものがどのようなものかという前に、民間委託を進めていくべきことだということからスタートしております。

道内のそれぞれの地域が空路を活用しながらまちづくりを進めていくため、そして北海道全体にプラスとなるようにするためには、民間委託が必要なことだと考えております。

現在、4カ所の国管理空港、道管理1カ所と市管理2カ所という枠組の中で、民間委託をどのようにやっていくかということでもありますので、今、進めていることは、何ら課題はあるとは考えておりません。釧路空港も国管理空港ということで、色々と整備も進めていただいているところであり、この民間委託の中で東北海道全体も踏まえ、帯広空港や女満別空港とも連携をとりながら、釧路空港の役割をしっかりと果たして、市で掲げた釧路空港乗降客数200万人という目標を目指しながら、取り組んでいきたいと思っております。

(質問)

- ・ 関連して、函館空港が、国際線の新規就航分について、着陸料を減免するとありましたけれども、釧路空港ではあるのでしょうか。

(観光振興室長)

- ・ 半分を国が負担し、残り半分を就航会社が払うという基本的なルールがありますが、就航会社の負担のうち、さらに半分を国が負担して、市も残り半分を負担することによって、無料となる制度がございます。最終的には、国が3/4、市が1/4を負担する制度を函館空港で使っているということです。新規就航のものが該当します。

(質問)

- ・ 釧路市はやらないのですか。

(観光振興室長)

- ・ 新規就航分にはその制度が使えるのですけれども、今のところは対象となる路線がありません。

(市長)

- ・ 対象となる新規就航がありましたら、もちろん行います。

(質問)

- ・ 全道各地でJ R北海道の駅や路線の廃止の話がありますけれども、道内自治体の首長が連携をした形の会議や、連合体といったものを作る予定であるお考えはありますでしょうか。

(市長)

- ・ まだ、J R北海道から具体的なお話は市には来ていないという認識でおります。今は、台風の被害をまず何よりも復旧させるということ、第一に考えながら進めていくということです。

当初、J R北海道が、廃止等についての発表をするという話があったので、根室市の長谷川市長、網走市の水谷市長と、北海道全体にとって必要なネットワー

クという位置付けの中で、個別の地域で議論する話ではなく、道が、しっかりとそこを踏まえながら進めていくやり方をとるべきだという話をさせていただいたところでもありますので、全道の市が集まってといった必要はまだないと思っております。

(質問)

- まだ結集して云々というところではなく、今の段階では個別の自治体での動きに留まるということでしょうか。

(市長)

- 個別の自治体で行うことについて、私は違和感を持っています。
北海道は日本の面積の1/5を占めており、JR北海道の鉄道は、北海道の交通ネットワークのどのような位置付けであるのか。新幹線は来たけれども、JR北海道の人の輸送、またJR貨物の輸送の役割を踏まえていく中で、道として鉄道のあり方について考えを示すべきではないかと道にお話しさせていただきました。

(質問)

- 現在、臨時快速が、1日3本しか走っていない状況です。先日、私も臨時快速に乗りましたけれど、ほとんど人が乗っておりませんでした。これから冬の観光シーズンとなる中で、いつ頃、札幌まで一本で行ける話になってくるのでしょうか。また、釧路駅の中のテナントも商品が売れないという話もありますから、行政として、どのようにしていくかということになると思います。観光振興も含めて、市長はどのようにお考えでしょうか。

(市長)

- 何とか年内に復旧するということが進んでいると伺っています。
あわせて、大きな輸送機関でありますので、キャンセルも含めて大きな影響があります。この地域のアクセスの問題に関わってきますので、航空会社にも対応をしてもらっております。私たちとしては、色々な人たちが取り組んでいることをしっかりと踏まえた中で、どのようなことができるかということを考えていかなければいけないと思っております。

(質問)

- 本社の社長に直談判をするような動きはないのでしょうか。

(市長)

- JR北海道に直接行ってということは、難しいと思います。JR北海道は、今、復旧を優先していることと思います。問題は、物理的なことや資金も含めどのようにやるということだと思いますので、JR北海道に直談判をするというより、北海道が何かしらの感覚を持ってもらいたいと思っております。

(質問)

- JR北海道に対して不信感を持っていらっしゃるのですか。

(市長)

- 不信感を持っていません。安全対策などをやっていただきたいと思っております。しかし、JR北海道への不満が道内各地域の中で起こってくること自体、北海道にとってマイナスだと思っております。ですから、道がまず北海道全体問題と

いう視点で進めていただきたい。JR北海道は北海道の財産であり、また、北海道の中での役割を果たしてもらいたいと考えています。

(質問)

- ・ 一義的には、北海道がイニシアチブをとってやるべきだろうという意見ということでしょうか。

(市長)

- ・ 道内179の自治体すべてが連携してということではなく、北海道にとってどうあるべきかと考えた時に、今回のようなやり方には疑問があるということが私の考えです。

(質問)

- ・ 図書館問題について、まず賃料の契約は既に行ったのか、また、まだであれば10月に契約したいというお考えでありましたのでいつごろ予定しているのかという点と、市民団体が説明会を行って欲しいと要望書を市に提出されたそうですが、その対応はどうされるのかをお伺いしたいと思います。

(市長)

- ・ 契約についてはまだ行っておりません。議会の中でも、10月ということでご答弁させていただいたところです。今後は、色々な作業の手順を進め、事務的に整えば、契約を行うことになると思っております。

あわせて、色々な説明をということでありますけれど、全戸に届く広報紙の中でわかりやすく、説明・報告していこうと考えております。

(質問)

- ・ 市長選挙も10月にあることから、市長選の投開票日の前に契約することはやめて欲しいという声があると思うのですが、準備が整い次第ということでしょうか。

(市長)

- ・ 契約時期については、事務的な準備が整えば行うものと考えております。